



## 2014 SCP (学生キャンパス副学長) 任命式が行われました

10月14日(火)、2014 Student Campus President (学生キャンパス副学長) 任命式が行われました。

薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部から、選挙により選出された学生に対し、新川学長からSCP任命状と専用プレザーが手渡され、激励の言葉を頂きました。

SCPは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を

行い実施する、全国でもめずらしい北海道医療大学独自の制度です。

SCPの多岐にわたる活動は、全国から大変注目されています。

SCP活動状況については、随時、下記SCPホームページやブログにて報告いたします。

SCPホームページ  
<http://scp.hoku-iryo-u.ac.jp/>



### 2014 各学部SCPよりご挨拶

薬学部 薬学科 2年  
谷口 栄 (たにぐち さかえ)



#### 「つながり」

私がSCP活動で主に行いたいのは、大学の主たる構成員である学生の皆さまから幅広く意見を聞き形にする事、SCPが行っている活動についての情報をホームページ等に発信してSCPがどのような組織なのかを幅広く知っていただく事です。

具体的に取り組みたいと考えているのは、イベント等を通して地域、他大学等の様々なコミュニティとの関わりと国際交流の活発化です。

このような機会を通し、学部・学科間をはじめ、地域や他大学の方々との交友関係や自身の視野を広げていく機会を学生の皆さまに提供したいと思います。

私自身、このような経験は初めてで不慣れな事が多いですが、精一杯務めさせていただき所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

歯学部 歯学科 2年  
藤澤 友哉 (ふじさわ ゆうや)



#### 「兎に角前進」

私は正直申しまして、まだ何をしようかと明確には決めておりませんが、北海道医療大学が医療系の総合大学である特徴を活かし、他学部との垣根を飛び越えての活動を意欲的に着手していく所存です。

私自身若輩者の上、色々な面で力不足であり、SCPになっても数多くの困難に直面することでしょう。しかし、自分と関わりのある、もしくはこれから出会う多種多様な方達と力を合わせることで、一人一人の限界を超えたパワーを発揮し、これから直面する困難を打ち壊す事が出来ると考えます。

私がSCPになった暁には、沢山の友達と協力し合い、ネバーギブアップの精神で全力投球していきますので、どうか温かい目で見守って下されば幸いです。

看護福祉学部 看護学科 2年  
久光 佑弥 (ひさみつ ゆうや)



#### 「どんなことでも『全力』で学べる大学を目指して」

看護福祉学部2年 久光佑弥です。私はSCPとして、私達学生の意見や大学への要望を積極的に大学へ伝え、私達の学生生活がよりよいものになる為に活動していきたいと思っています。

そのためには皆さんの協力が必要です。皆さんの学生生活への様々な要望を聞かせて下さい。

よろしく願います。

心理科学部 臨床心理学科 2年 渡邊 泰羅 (わたなべ たいら)



#### 「よき大学を目指す」

私はSCPになって、こんな大学にしていきたいという理想はありません。理想は皆さんと共に築き上げていきたいと思うからです。そのためには皆さんの多くの意見や希望が必要です。どんな些細なことでも構いません。もし些細すぎて心配なら、周りの友人と意見を交わしてみてください。もしかするとそれは些細なことなんかではないと気が付くかもしれません。そのようにして出してもらった意見から、皆さんと共に理想を作り上げていきたいと思っています。

また、来年度より心理科学部は当別キャンパスと札幌あいの里キャンパスに分かれますが、同じ道を志す先輩後輩の関係を構築をこれまで通り円滑に行えるようにする事など、新しくも重要な課題があると考えています。様々な課題毎によき対応策を練っていきたく考えていますのでよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科学部 理学療法学科 2年 濱屋 幸佑 (はまや こうすけ)



#### 「より良い大学をつくるため」

「より良い大学」とは何なのか決めるのは、私たちが在学生を含めこの大学に在籍する全ての人です。しかし、それだけではないと私は考えます。外から見ても「良い大学」と決めるのは学外の一般の方々です。ですから「学内」と「学外」の両方の活動が必要です。

「学内」においては、私の所属するリハビリテーション科学部の学生の意見やアイデアをまとめ、他学部のSCPと協力してプロジェクトを立ち上げたいと考えています。具体的には、球技大会には含まれていないスポーツの大会を開催する事などです。

「学外」においては、地域交流やボランティアなど、普段学内では体験できないことを中心に考えていきたいです。

リハビリテーション科学部は新設学部であり、これから更に学生が増えます。それに従って大学に対する意見や要望も増えていくと考えられます。それらを取り纏め、「より良い大学」をつくるために私はSCPとして活動していきます。よろしくお願い致します。

### EDITOR'S NOTE

春は旅立ちの季節、卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。今の皆さんの心境はいかがですか。新たな出発に希望や期待で一杯でしょうか？それとも不安や心配の方が強いでしょうか？これから皆さんはたくさんの出会いと経験を積み、社会人として成長していくことでしょう。そんな皆さんを卒業式で送るとき、毎回喜びと共に寂しさを感じます。「人生は帳尻が合うもの」とよく言われます。これからの人生で、成功もあれば失敗もあるでしょう。成功したときは有頂天にならずに気を引き締め、失敗したときは下を向かず前を向き、「且緩々」の言葉のように焦らずゆっくりとした気持ちで頑張ってください。

さて、この春には心理科学部が当別キャンパスに移転します。大学が充実するのは喜ばしいことですが、朝夕の電車の混雑が心配です。通勤・通学が悩みの種にならないように、お互いにマナーを守り、気持ちよく利用しましょう。

(K.E記)

## ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.160

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 中山 英二 鐘口 有秀  
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 漆原 宏次 田村 至  
大塚 裕之 木村 恵 杉原 佳奈 杉谷 昌彦  
宮川 雄一 國見 明美 塚田 将人

発行日 ● 2015年3月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課  
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757  
☎(0133)22-2113  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp>

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。  
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念  
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

